

やどから

2005年2月15日発行
(毎月1回15日発行)
昭和62年12月19日第三種郵便物認可
発行人 社団法人やどかりの里
代表者 土橋 敏孝
〒337-0043
さいたま市見沼区中川562
電話 048-686-0494
定価 50円(含会費)

当事者の生活を脅かす制度改変

～精神障害者通院医療費公費負担制度の改変案を受けて～

本紙でも取り上げてきたように、今、障害福祉の分野で大きな制度改変が行われようとしている。改変の内容は、昨年10月に厚生労働省から示された今後の障害保健福祉施策(改革のグランドデザイン案)を契機に少しずつ明らかになりつつあるが、具体的な中身は十分伝わってはきていない。今回は、現在示されている範囲で見えてきた精神障害者通院医療費公費負担制度の改変について取り上げる。

そもそも精神障害者通院医療費公費負担制度は、精神保健福祉法第32条(以下、32条)に規定されている。条文では「都道府県は、精神障害の適正な医療を普及するため(中略)病院または診療所へ入院しないで行われる精神障害の医療を受ける場合において、その医療に必要な費用の百分の九十五に相当する額を負担することができる」となっている。この制度は、在宅精神障害者の医療の確保を容易にするために、昭和40年の精神衛生法改正で創設されたものであり、通院医療を積極的に進めていくことを支えるものと位置づけられている。

精神障害は慢性疾患であり、やどかりの里のメンバーもほとんどの人が32条を活用しながら、多い人では週に1回の通院を継続し、地域での暮らしを維持している。32条を活用することで負担に苦しむことなく継続した精神医療を受けられ、地域での暮らしが支えられているのである(本紙6p参照)

昨年末に開かれた第22回、第23回社会保障審議会障害者部会で示された見直し案では、平

成17年度の精神保健福祉法の改正にあわせて、この32条がなくなり、他の障害とともに「障害者自立支援給付法(仮称)」に統一され、自立支援医療費として位置づけられる。これにあわせて利用者負担も見直される。公費負担制度を活用する人が増え、財政的に極めて厳しい状況であるため、公費負担制度が受けられる人の範囲が、大幅に狭められるのだ。所得税額が30万円以上の世帯は、自立支援医療費の給付対象から外される。この場合は医療保険のみで、3割の自己負担になる。従来は6倍の負担である生活保護世帯や市町村民税非課税世帯は継続的に給付対象となるが、所得税額30万円未満の中間層とされる世帯に関しては、障害が重度かつ継続的な場合のみ継続的な給付対象とされる。しかも、給付の割合がこれまでの100分の95から100分の90に縮小される(所得に応じて月額負担上限を設定する措置は取られる)

このように見ると、家族と同居している当事者の医療費負担に直接影響が出てくると考えられる。また、扶養義務者負担は廃止と謳いながら、世帯単位で給付対象を決める矛盾など問題も多い。新しい制度の全容が明らかにはなっていないが、現状で見る限り、安心して精神医療を受け続けられる基盤が揺らごうとしているのである。当事者の地域生活を守るためにも、国の動きを見極め、全国の仲間と運動に取り組むことが求められている。

やどかりの里35周年記念企画

5年間の軌跡をたどる

やどかりの里は2005年7月に設立35周年を迎える。この35年の間に日本社会、福祉を取り巻く環境が目まぐるしく変化した。私たちはそうした動きに翻弄されながらも、たくさんの方々の支えにより地域で一人一人が生きていく為に大切と思える活動を微力ながら展開し続けてきた。この

やどかりの里活動方針とトピックス	社会の動き
平成12(2000)年度 「主体的に活動を創り合う～連帯と協働～」 各生活支援センターが担当地域を定めてから2年 3市合併 精神保健福祉業務市町村移管を見据えた活動を模索し始める	4月 新成年後見制度・介護保険法施行 12月 「社会福祉増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律」成立 1月 省庁改編
平成13(2001)年度 「ネットワークづくりと内部の充実を目指して」 理事長の交代 定期総会にてやどかりの里の2つの調査から導き出された課題」を法人の課題として決議 学習の場が広がってきた1年 生活支援態勢を見直し、「生活支援活動の5つの課題」を導き出す	4月 小泉内閣スタート 5月 さいたま市(以下、市)誕生 9月 市内29団体で精神障害者福祉施設の充実を求める要望書提出 12月 厚生労働省(以下、厚労省)第1回 社会保障審議会障害者部会 2月 市内障害者団体で市障害者基本計画自主学習会開始
平成14(2002)年度 「自己完結型の活動作りからの脱却」 市障害者計画のヒアリングなど積極的に参加 身近な地域でのネットワークづくり 連携を意識する一人一人の力量形成、メンバーと職員の協働を意識した学習の取り組み	4月 精神保健福祉業務市町村移管 支援費支給制度開始 6月 日本精神神経学会が「精神分裂病」から「統合失調症」に病名変更 12月 国「障害者基本計画」「新障害者プラン」策定 3月 米・英によるイラクへの武力行使始まる
平成15(2003)年度 「ネットワークづくりと財政基盤の確立、政令指定都市『さいたま市』での挑戦」 各補助金削減問題に対する運動に積極的に参加 障害者福祉と介護保険の統合論が浮上し危機感を抱く市内に1か所の生活訓練施設として援護寮の機能を見直す 24時間365日の緊急対応の態勢づくり 市内関係機関と様々なレベルでのネットワークづくり	4月 国新障害者計画スタート さいたま市が政令指定都市になる 6月 精神障害者社会復帰施設整備費大量不採択 7月 「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」成立 市精神障害者小規模作業所連絡協議会発足 9月 市内関係機関で退院促進学習会を開催 10月 市内5か所の生活支援センター共同で情報紙の発行開始 12月 市が区役所内の授産製品販売所提供試行事業開始 1月 障害者8団体と厚労省障害保健福祉部が定期勉強会開始
平成16(2004)年度 「社会を見る目を育て、共同の運動を進める」 LEプロジェクト等、働く場同士の連携 国体・障害者スポーツ大会が埼玉県で開催、ソフトバレーボール予選・グッズ販売等で参加 ショートステイ事業の準備開始 1人暮らし体験の場として「チャレンジハウス」の取り組み開始	5月 市障がい者施設連絡会の発足 9月 厚労省「精神保健医療福祉の改革ビジョン」 10月 厚労省「今後の障害保健福祉施策について(改革のグランドデザイン案)」

2000年度～2004年度

企画では2000年度から2004年度までの活動を、数回に渡り振り返っていく。第1回はこの5年間の組織活動を社会の動きと共に年表にした。詳細については各年度の所報をご参照いただきたい。次回は様々な活動に関わった人たちの生の声をお届けする。(文責 堤 若菜 中村 由佳)

やどかりの里の動き	
平成12(2000)年度	
4月	30周年記念祝賀会を開催
7月	第4回人づくりセミナー「専門家主導から共に創り合う活動への転換-協働と連帯を目指して-」を開催
9月	30周年記念出版を機に「やどかりの里全国縦断キャラバン」を開始
11月	職員を対象とする「やどかりの里状態調査」を実施
2月	やどかり研究所が第7回地域精神保健・福祉研究会「生活支援活動の概念の転換-やどかり情報館がやどかりの里の活動にもたらしたものを開催
3月	「やどかりの里状態調査」より課題を導き出す会を開催
平成13(2001)年度	
4-3月	「やどかりの里状態調査」より導き出された課題を考える会を開催
4月	やどかり研究所の事務局を福祉工場に移動、障害当事者・実践家・研究者の共同代表制に
5月	定期総会にて理事長交代を谷中氏が表明
5-11月	さいたま市の障害者施策に対する要望書づくりを目的としたワーキンググループを開始
6月	やどかり研究所が「社会の動きを知るための学習班(通称白石学習班)」を組織、学習会開始
6月	やどかり研究所がやどかりの里の茶の間を研究する「志村学習班」を組織、「茶の間でおしゃべりする会」企画
6-3月	理事会のあり方について考える会を開催
8月	作業所「YOU遊」の開設
9月	やどかり研究所が「精神障害者の政策決定参画を目指した日加交流」の研究で渡加
12月	第5回日本健康福祉政策学会学術大会をやどかりの里が事務局となって開催
平成14(2002)年度	
4月	やどかり塾が事業に関わる職員向けのワークショップ「わくわくの会」を開始
7月	第5回やどかりの里人づくりセミナー「住民と自治体の連携による健康福祉の街づくり」開催
8月	やどかり研究所がやどかりの里の実践を学ぶ「温故知新班」を組織、学習会開始
2月	作業所運営の安定化と働く場の質的向上を目指す「作業所のあり方を考える話し合い」開始
2月	通所授産施設が5周年記念事業開催
平成15(2003)年度	
4月	生活支援活動において退院促進のための新規プロジェクトが開始
4月	生活支援センターが憩いの場に関わる職員向けの研修会を実施
6月	共同生活型グループホームを設置
7月	やどかり研究所が第8回精神保健・福祉研究会「回復過程と支援環境-香野英勇の精神分裂病と付き合い始めた第一歩-」を開催
8月	「夏の響き」コンサート開催
9月	さいたま市障害者施設推進協議会の構成員に増田 香野(英) 就任
10月	厚労省「精神障害者の地域生活支援の在り方を考える検討会」の構成員に香野(英) 就任
11月	グループ活動「自分たちの暮らしと今後について話しあう」開始
12月	グループ活動「働くことについて考える」開始
2月	やどかり研究所と通所授産施設が「エンジュのお弁当利用者の状態調査」実施
平成16(2004)年度	
4月	やどかりの里の地域生活支援の機能を24時間365日対応可能にする態勢を整備
7月	第6回やどかりの里人づくりセミナー「健康文化を自律的に見る目・語る目・動かす目の創造」開催
8月	福祉工場にてトライアル雇用を実施、利用の窓口をハローワークへ
9月	労働支援のあり方を検討するための労働支援会議を設置

新人職員座談会

夢中で、迷って、実を結ぶ、この1年を振り返る

今年度のやどかりの里(以下、里)の新人職員は、精神病院で作業療法士として7年間の勤務経験がある岡登陽子(エンジュ)、里でボランティアやアルバイトをしていた椿原亜矢子(まごころ)、渡辺里子(ドリームカンパニー)、知的障害者・高齢者施設で勤務経験がある山田千鶴(ルポーズ)の4名。

今溢れる思いを熱く語って戴きました!

聞き手 里に来て今までとの違いは?どんな印象?

山田 精神障害は成長してからなり、知的障害は生まれたときから、知的障害者施設では、全てこちらがレールを引く感覚があったが、一緒に相談しながらやる違いを発見した。

岡登 病院の患者さんは、職員に気を使って何十年も生きていて、消極的になってる人が多い。でもエンジュはミーティングとか言いたい放題!気にせず自由に意見を主張できる。

椿原 今までうやむやにして過ごせてきたことが、そうさせてもらえず苦痛を感じた。でも段々何でこうしたのかと自問するようになり、曖昧にしないことの大切さを感じてきた。

渡辺 メンバーが初対面で家族との葛藤など、ためらいなく話してくれて驚いた。土台に信頼関係があるからできることだと思う。

聞き手 自分たちの生活はどんな感じ?

椿原 半年は片道2時間を実家から通った。慢性的な疲れも慣れない仕事の緊張感と思ってたけど、引越してかなり楽に、ゆっくり眠ったり、発散する時間がもてるようになった。

山田 前は夜勤があったが今は19時には帰れる。買い物もこれを使って何ができるか試そうと考えたり、生活の中にルポーズがある。

岡登 これまで持ち帰りの事務仕事があったけど今はない。自分の自由な時間が持てる。

渡辺 基本インドア派。でも遊びに行ったり、

一人暮らしは半年位でバランス取れてきた。

聞き手 これは困った、戸惑った、ということとは?

椿原 今後まごころでワーカーの役割を果たしてほしいと言われて迷いの渦中に、これまで特に意識せず弁当を作る日々。調理担当職員が抜ける不安も重なった。何を求められ、何をすればいいのか。相談するとワーカーとしての視点はどこでも変わらないと。でもそれなら何で私はまごころにいるのかと。今は目の前の人を大切に、何のためにこれをやるかと積み重ねる。一つ一つがワーカーとしての視点だと気づいた。

岡登 悩みは入ったときから、5分おきくらいにやめようって。私は厨房の仕事のためじゃなく、地域で働く精神障害者の役に立ちたいから就職したんだと。それにメンバーと職員の作業内容が分かれていて、何で?一緒にやろうよ!と思ってた。チーフに相談したら、それならメンバーのスキルアップに野菜の仕込をやるようになって、徐々にそういう事を始めて、働いていけるかなと。メンバーからのねぎらいの声もあり、やっていこうかって。

渡辺 実質的に切り盛りしてくれていた非常勤さんが退職し、何かあればすぐに聴けてた人がいなくなり、どさっと任された気がした。実際は、周りの職員やメンバーに聴くことはできたけど、最初は戸惑った。今は器の大きい温かいメンバー達に助けられている日々。

山田 悩みを感じる暇も無いほどの現場。最近、段取りを自分で組んで流れが見えるようになって迷い始めた。作業所と知らない方は普通以上のサービスを求めてくる。今は駅前のドリンクバーが180円。そこを350円も払ってコーヒーを飲むんだから、経営とメンバーにかかる負担、その兼ね合いは、難点、ネック、アキレス腱...!それを、年の功で綱渡り中。

聞き手 皆と楽しい、嬉しい、をどう共有してる？

岡登 もっとラフに遊びたい。仕事で分かりあえることに加えて、仕事以外の楽しさも通じ合えるともっと楽しい。それを共感したい。

山田 メンバーが一生懸命やった分は還元したい。できる限り皆と一緒に楽しめるようにしたい。自分が皆の親の世代だからかなぁ。

渡辺 作業中のおしゃべりで、聴いてもらって皆すっきりして帰ったり、行事も楽しいけど皆普段の仕事が楽しみで大切なのかも。

岡登 行事に参加しなかった人がいたら、何してるのか自然に興味があく。うるさく思われるかもしれないけど、何に興味があるか聴いて、その人の興味に自分も共感できれば。

椿原 まごころの人たちは本当に商売熱心。売れたら楽しいし嬉しい。それがボーナスや旅行に還元され、形になるとさらに嬉しい。

山田 ウチも3、4年ぶりの冬のボーナスに大喜び！それを見て、私も本当に嬉しかった。

聞き手 社会や里の動きの会議が多いけど大丈夫？

山田 他の作業所と接点がない。知りたくて、やどかりの本を自腹で買った。時間ができたら、他の作業所の活動を知るツアーをしたい。

椿原 話し合いが多いから、私はまだ何とかついていける。メンバーの関心はまごころがどうなるか。そこを国の動きの一部として捉えてほしいとわからないながら考えてる。

渡辺 会議などに意欲的に参加しているメンバーがいて、そのメンバーが実感を込めて話すことが皆に現実感をもたらす。職員からの情報発信とは危機感が違い、助けられてる。

岡登 エンジュミーティングは活発で、メンバーは社会の動きに関心も高く、教えられることが多い。ミーティング巡りもしてみたいな。

山田 お店をやりながらのミーティング、だが

ら突っ込んだ話ができない。いくつか店を閉めてやってみたい。いろんな郵便物もあり、一つ位、皆がどう思ってるか聴きたい。皆で話せば反応しあう事もあるのでは？と思って。

聞き手 皆さんの今後の夢や目標は？

渡辺 夢はドリカンハウス。今は作業場での休憩で気が休まらない。裂き織りする空間と休憩室。作業場、店舗、できれば一軒家を、何年先になるか。でも皆の夢、私もかなえたい。その人の思いを大切に、例えば店をもっと素敵にしていこうとか、そこに役割をもちたいし、一人一人と向き合っていきたいと思う。

椿原 私はワーカーの役割もありつつ、やはり弁当屋。基礎から料理を学びたいなって。

(一同) オーッ！素晴らしい！

椿原 メンバーが安心して働ける場所にするには、きちんと調理を知る人がいることも大切。一方で援助計画や面接する力もつけたい。

岡登 一人一人、どんなことをやりたいか、これが得意、大胆なのが好き、細かいのが好きとか、この人はこんなところがあるから、こういう仕事があつてると、その人がキラーンと光るところに携われたら、自分も光るんじゃないかって、そんな風にしていきたい。

山田 壮大な目標は、2階を畳の休憩室に、ケーキ工房をガラス張りに...！ささやかな願いは3畳位の畳の部屋。まさにルポーズ 憩いの場であってもいい。がむしゃらに働くだけでなく、家庭とまた違う時々クソツと思いつつ、この仲間をみるとホッとするような場所でありたい。話して、お互いが分かりあうと、もっといろんなことができる感じがする。ドリカン&ルポーズハウスをつくって、裂き織りしながらケーキ教室。そこにまごころとエンジュがお弁当を運ぶ...とか！

(一同) いいよね～！

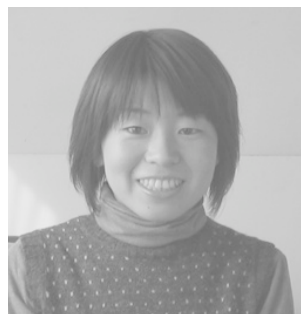
(聞き手 澁谷 文香)

(岡登 洋子)

(椿原 亜矢子)

(渡辺 里子)

(山田 千鶴)



どうなる？ 私たちの生活

～ 通院医療費公費負担制度の改変案について皆で語る ～

本誌1面でも取り上げた精神障害者通院医療費公費負担制度(以下、32条)の改変案を受けて、実際に制度を利用しているやどかりの里メンバーが、32条をどう利用し、この改変案をどう捉えているかなどを語りあう座談会を1月18日に開いた。メンバー、職員合わせて10名の参加者があった。

まず制度改変案についての情報共有をした。既に勉強会等で問題意識を持っている方が多かったが、32条がなくなり、自立支援医療費(仮称)として位置づけられた場合、具体的に個々の負担がどう変わってくるのかを検討してみた。この中で、家族同居をしており、月2回の通院をしている方を例に挙げてみる。

【現在(32条適用)概算】

通院1回につき	診察代	240円
	薬代	1,300円
	合計	1,540円

1か月にかかる医療費

$$1,540(\text{円}) \times 2(\text{回}) = 3,080\text{円}$$

【改変後(概算)】

通院1回につき	診察代	1,440円
	薬代	7,800円
	合計	9,240円

1か月にかかる医療費

$$9,240(\text{円}) \times 2(\text{回}) = 18,480\text{円}$$

この方の場合家族同居で、世帯単位の所得税額が30万円以上であり、自立支援医療費の対象外となる。従って医療保険のみ適用され、3割の自己負担となる(現在の6倍)

この方は、障害基礎年金を受給しており、その中で自分なりに遣り繰りしているという。改変後に制度の適用から外れ、自己負担が増える

ことで、経済面での圧迫による精神的ストレス、継続して必要な医療を担保することができるか、友人・家族との関係の悪化、何もできずに引きこもってしまうのではないかなど、不安を切実に語っておられ、参加者全員で深刻に受け止めた。

上記のような具体的に身に迫ってくる問題と照らし合わせて、危惧される点などの意見を出し合った。「この案には国の財源不足を埋めるという大前提があり、その為に出てきたものだろう。障害者がどういう状況に置かれるかは二の次だ」「自己負担が増えると医療を受けられなくなる可能性がある。今だって受けたくても受けられない人がいるのに」「病気再発の恐れがある。必要な医療を受けられなくなれば、再入院になってしまう」「医療の剥奪だ!僕らは死ぬまで医療が必要なのに」「家族に負担をお願いしても、お前が稼げといわれるだろう。働く事を目指して頑張っているが、すぐには難しい。何もできなくなってしまう」「制度が整っていないのに自立しろ、働けというのは矛盾している」「弱いものに厳しい制度になってくる。一人で寂しく生活保護を受けて生活した方がいい身分ということになるのではないか」「私たちの声を無視して制度をつくらないで欲しい。どうになってしまうのだろう」「好きで病気になったのではない。これを考えた人だって病気になるかもしれない。きちんとした保障をして欲しい」「すごいスピードで様々な事が決められていく。こちらも勉強して、読み取っていかなければならない」

それぞれの切迫した思いに危機感が募るばかりである。32条を利用して生活・生命を保っている方達の実態を踏まえ、人間らしい暮らしを守る為にも、声を合わせて訴えていかねばならないと感じる。

(鈴木 裕貴)

〈作業所のあり方を考える会報告〉

厳しい社会状況の中、今私たちが取り組んでいきたいこと

作業所のあり方を考える会は、運営補助金の削減など作業所が置かれている厳しい現状を共有し、それに伴う学習と検討を通して、作業所の活動を担うメンバーと職員と一緒に今後の作業所のあり方について考えることを目的に掲げ、2003年2月に誕生した。その後、さいたま市内の他の作業所からの声かけで、さいたま市精神障害者小規模作業所連絡協議会（以下、連絡協議会）が発足することになり、そこで今までやってきていたような学習や話し合いができていくのではないかということで一旦休止となった。しかし、連絡協議会は職員中心の会として進められており、今後の作業所のあり方についてメンバーと職員と一緒に考えていける場が必要だということで、2004年4月から作業所のあり方を考える会を再開した。

再開後は、それぞれの作業所の事業内容や収支についての情報共有を中心に話し合いを進めてきた。5月からは作業所を取り巻く現状を地域の方たちにも知ってもらおうと作業所のあり方を考える会でバザーの事務局も担った。今まで行ってきた情報共有とバザーの終了を区切りに、再度作業所のあり方を考える会で何を課題とし、今後どんなことに取り組んでいきたいのかということについて話し合った。

やどかりの里の作業所がそれぞれに取り組んでいる事業の内容は異なっている。しかし、それぞれの作業所が抱えている課題を出し合ってみると、

「補助金削減など運営状況が厳しく、工賃も少ない。事業を安定させ、工賃を少しでも上げたい」

「事業を充実させながらも、自分たちの働く場所として、大切な居場所としてのバランスを

大切にしていきたい」

「スペースや運営状況から働く時間や日数が限られる。一人一人の働く意欲を大切にしていきたいと思いつながりながら作業所の状況が追いつかない」など、ほぼ共通した意見が出てくる。

そこから作業所が抱える共通の課題として、事業の安定と作業工賃の向上を目指すこと、精神障害者の働く場所として働きやすい環境を整え、それを維持していくこと、の二点をあげた。また、作業所の活動はその二点のバランスをとっていくことが大切であることを確認し、今後、作業所のあり方を考える会の課題として取り組んでいくことになった。

具体的には、社会や福祉の動向など作業所を取り巻く状況についての情報共有とそれに伴う学習や検討を行う。社会や福祉を取り巻く情勢が大きく動いている中、それらの動向を見極めつつ、自分たちの足場となる活動をつくっていくことを意識し、社会状況と自分たちの活動をつなげて考えていきたい。事業面については、今まで自分たちの活動について検討する機会が多かったこともあり、必要に応じて、他団体の事業や活動を学ぶ見学研修等も行いながら、事業の安定を目指していく。また、作業所では働いている人の思いや将来への希望に触れることも多く、作業所で働く人たちのニーズを把握し、それらをどう実現していけるのかについても話し合っていきたい。

作業所のあり方を考える会は、それぞれの作業所の活動を担う職員とメンバーの代表が参加している。この会で話し合われたことをそれぞれの作業所に持ち帰り、この会の課題を自分たちの問題として考えていくことを大切にしていきたい。（宗野 文）

< 第3木曜会報告 >

最近の状況について情報共有

平成17年1月20日に第3木曜会が行われた。内容は以下の通りである。

1. 日本健康福祉政策学会ポスター発表

12月に行われた第8回日本健康福祉政策学会(1月号4面)のポスターセッションで発表されたエンジュの活動をまとめたポスターを、エンジュの堤と山本が報告した。発表のテーマは「一食のお弁当がいのちをささえる」で、2つの視点から発表がされた。1つ目は、職員とメンバーが協働する組織づくりのプロセスに着目した報告。2つ目は、エンジュの活動とお弁当利用者への調査から見えてきたこと、更に今後の展望に着目した報告であった。ポスターはとても見やすく、写真なども活用されていた。

発表後、出席していた人から感想をもらい、その中で「自分の活動に落として考える機会になった」今回の話の中でエンジュの全体像が見えてきた。この活動は施設活動ではなく、地域の支え合いの仕組みを作っていこうとしていることだと気付いた。今後は「働くメンバーの状態調査があっても良いのでは」という意見も出された。

2. 35周年記念事業について

機関紙やどかりで35周年に向けて、企画中。その企画にむけて、平成12年から平成16年までの5年間を振り返る座談会をメンバーと職員と一緒にに行った。座談会に参加した人達からは「この5年で、外からやどかりの里を見ることが出来た」「メンバーと職員と一緒に活動していることを実感」「社会情勢の厳しさが明るみになった」等の感想が語られた。また、7月には法人として35周年記念事業を開催するので、それについては今後実行委員を募って取り

組んでいくことが確認された。

3. 精神障害者通院医療費公費負担制度

改革のグランドデザイン案の中にある「通院医療費公費負担制度の変更について白石が説明(本紙6pを参照)

説明の中で「それぞれの負担が大きくなると、家族に負担がかかり、それによってメンバーの肩身が狭くなり、病院に通院しづらくなるのでは」という危惧があると話された。

また「安心して治療が受けられる環境を守るためにも、当事者団体が集めている30万人署名にやどかりの里も協力することが確認された。署名が多く集まっても、この流れが止まるわけではないが、きちんと運動をしていくことが大切であることを再確認した。」

4. 防災対策について

現在「生活支援センターの登録者に対して確認を行なっている防災対策についての情報共有を行なった。(震度5以上の地震が起こった場合、対策本部をやどかり情報館に設けること。万が一のときのために各自薬の処方箋を携帯し、自宅の近くの避難所に避難をすること。等)

また「地域レベルでどのような避難所があるのかについてのマニュアルを作成中。でき次第皆に伝えていく。」

5. その他

署名の依頼

きょうされんで「改革のグランドデザイン案(1月号6p)」で出されている「応益負担に反対する団体署名がきている。各施設の責任者の人に依頼。」

(仮)さいたま市障害者総合支援センター

さいたま市で知的・身体・精神の障害者生活支援センターが出来る。ホームページでパブリックコメントを募集中。

(文責 飛内 理恵子)

各地で活躍する講師団・12

支え合って活動する講師団の面々

この1年 講師派遣の調整の窓口を担当して
いて実感したことは、メンバーへの単独の依頼
が圧倒的に増えたことです。以前は職員とメン
バーでお願いしますという依頼で、メンバー
だけの派遣を心配される雰囲気がありました。

ここ数年 精神障害の体験を持つ人の話を聴
きたい、というニーズが各地に高まっていった
のだと思います。そして 私たちも講演活動を
やどかり情報館という福祉工場の1つの事業
として位置づけ、そのための仲間づくりや共同
の学習を重ねてきたことが、成果を上げている
のだと思います。精神障害を持つ人たちの特徴
の1つとして、体調の変化があります。派遣を
決定する会議でその仕事をやってみたいと意
思を示しても、自分でも予想外に体調を崩して
しまうことがあります。そういうときに、必ず

仲間の中でピンチヒッターが決まっていて、依
頼先にご迷惑をおかけしないという態勢が
整っています。体験を語ること、体験に基づく
自らの意見を、多くの人たちの前で語ることは
そう簡単なことではありません。それぞれに準
備を重ね、気持ちの整理をしながら、そのこと
に臨みます。

ドキドキしながら、緊張しながら出向いて、
体験を語り、聞いてくださった方々の反響に勇
気づけられて帰ってきて、「緊張したけど、行っ
てきました。すごくよく聞いてもらえました。」
と弾んだ声で報告を受けます。出向いた先での
さまざまな人との出会い、交流に元気をもらっ
てきたんだなあと思います。今年も講師団は互
いに支え合いながら、活動を続けています。

(やどかり出版 増田 一世)

< 報告 > 理事会

平成16年度 第4回 理事会報告

日 時:平成17年1月14日(金)

午後4時から

出席者:土橋敏孝、増田一世、浅見典子、三石麻
友美、辰村泰治、松井勝巳、石黒サナエ、
山崎光夫、柳義子、飯塚哲朗

委任状提出:小沢直子

第1号議案:35周年記念行事について

実行委員会を組織し、35周年行事を行う。実
行委員長は山崎光夫理事。2005年7月に埼玉
県障害者交流センターで開催予定。

第2号議案:活動準備基金配分委員会

昨年度創設された本基金に、上木崎憩いの家
より家賃分の補助として2か月分140,000円
申請があった。梨の販売売上は既に本基金に入金
となっている。審議の結果本申請は承認された。

その他報告

避難訓練の実施

授産施設及び援護寮 1月20日

福祉工場 2月4日

監査等の予定

埼玉県公益法人検査 1月20日(木)

さいたま市実地指導 2月8日(火)

厚生労働省会計監査 2月18日(金)

人事関係:退職者について報告

厚生労働省今後の障害者福祉施策について
(改革のグランドデザイン案)の説明

次回理事会

3月26日(土)午後4時30分から

(文責 浅見 典子)

やどかり日誌 2005年2月

大宮東部生活支援センター

お正月休みも終わり、なす花のゆったりとした日常が、明けましておめでとうございます。の明るい掛け声と共に始まりました。1月のなす花は、イベントもないので作業にひたすら取り組み頑張っています。唯一の販売、大宮区役所の販売では、少しずつではありますが、リピーターのお客様もいらして下さり、なす花の製品が、世の中に密かに広まっている喜びを実感している今日この頃です。（野島 久美子）

エンジュ

今年度も残りあとわずか！エンジュは2千万円という大きな売り上げ目標をたて、日々黙々とお弁当作りと配達に力を入れてきました。また、団地にチラシを配りに行くなど、販売促進にも試み、エンジュ皆で力を合わせた結果、上半期は目標達成！そして年間2千万という目標にも近づいてきています。あと1か月です。ラストスパートです。皆さん！！エンジュの目標達成にご協力（お弁当注文）宜しくお願致します。（金子 猛）

大宮中部生活支援センター

「大宮中部生活支援センターは今!!ワンツースリーの鈴木さんに支えられて、鈴木美紀さんにはまずスマイル、疲れている時、明るく「ネ真実さん」と勇気づけられます。裕貴さんには生活面で支えられています。大きなテーブルを運んで下さりました。恵さんにはサツマイモを沢山頂きました。若いメンバーの母親の年頃に私はなりました。メンバーが互いの心の痛みを抱え、職員が支えてくれ、良い日々が更に続きますように!...

（田川 真実）

まごころ

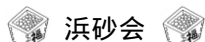
就職直前で一番心に残っている合同旅行会。夏のキャンプ、秋は大バザー、年越しの行事等、どれもお互いを知る良い機会となった。新年顔合わせ会の料理作りの為、家族そっちのけで美しい食材購入に奔走した事もなつかしい思い出。他の皆様からも折々に声をかけて頂いて、7年余り中身の濃い日々だった。長い間本当にお世話になりありがとうございました！「やどかりの里」の益々のご発展を心からお祈り致しております。（佐藤 信子）

やどかり情報館

1月14日(金)に増田館長の説明によるランドデザイン案の情報共有会が行なわれ、皆で意見を述べ合いました。何故に国は福祉の予算を削るのだろうか？医療・福祉は憲法に謳われている基本的人権の尊重に関わる分野なのだ、という意見に共感を覚え、もっとほかに削る部分があるのでは？という感想を抱きました。この先、新聞やTVのニュースにもっと関心を持っていこうと、注意力を喚起させられた2時間でした。（Y.Y.）

浦和生活支援センター

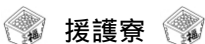
1月8日(土)に新年舌つづみの会と題し、お鍋をした。当日は寄せ鍋・キムチ鍋・かす汁の3種類の鍋が並び、みんなで鍋をつつきながら色々おしゃべりをした。デザートには、堀尾さんお手製のりんごのラム酒焼きにバニラアイスを添え、荒井さん特製の紅茶と共に一休み。その後は、昔を思い出しながら百人一首に燃え、正月気分の抜けないひと時だった。この日は「いつも食べてばかりの浦和」の、食はじめだったようだ。（飛内 理恵子）



浜砂会

明けまして、おめでとうございます。

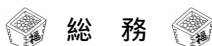
昨年の合同旅行に3名のお母さんが参加して下さいました。日米交歓会のメンバーと当地の「いこいの家」の障害者のお母さん達との交流会が開かれ、有意義な旅行となりました。家族研修会ではNHKで放映された「きらっと生きる」のビデオ鑑賞、とてもためになったとの事。また機会があったら勉強したいと思っています。12月28日のお餅つきには6名のお母さん達がお手伝いして下さいました。皆様本当にご苦労様でした。斉藤さんのご主人が1月2日お亡くなりになりました。ご冥福をお祈りします。



援護寮

寒い日が続くなか、援護寮では暖房とホットカーペットのもとに人が集まり、皆でお茶をしたり、おしゃべりしたり、ゴロゴロしたり、退院してくる方や、休息で利用される方、試験利用

の方たちが新しく入ってきて、にぎわいのできた一方で、援護寮からアパート暮らしに移っていくと嬉しそうにしている方もいる。いろいろな出会いを繰り返しつつも、穏やかな変わらない日々が続いていくのはいいもんだなあと思う。(澁谷 文香)



総務

年度末に向かってあわただしさが増してきた。しかも監査の当たり年！ここ数年規程の見直しを行い、都度整えてきたが、外部の監査の目からはどのように映るのだろう。そして人の異動も多い。退職、入職、産休、傷病手当金の申請など毎月社会保険関係に気を配らないといけない。この社会保険料の莫大なこと・・・これがきちんとした社会保障に当てられることを望み、きちんと毎月納付している。

(浅見 典子)

やどかりの里 "先月の動き"

- | | |
|---|---|
| 1/4 新年顔合わせ会 | 1/12 埼玉県精神保健福祉協会ホームページ検討委員会に宗野(政)出席 |
| 1/5 足立区竹ノ塚保健所より3名見学 | 1/12 さいたま市授産製品販売所運営委員会に増田出席 |
| 1/6 地域生活支援センターだより打ち合わせに渡邊(奏)、宗野(文)、鈴木(裕)出席 | 1/12 千葉県君津保健所家族教室にて辰村講演 |
| 1/6 フィリップモリス助成事業打ち合わせに三石、白石、鈴木(美)、渡邊(奏)、宗野(文)、鈴木(裕)出席 | 1/12 埼玉県精神保健福祉士協会役員会に堤、玉手参加 |
| 1/7 人づくりセミナー実行委員会ふり返りの会開催 | 1/14 第4回定例理事会開催 |
| 1/7 埼玉県精神障害者社会復帰施設運営協議会生活支援センター親睦会実行委員会に石黒(サ)、渡邊(奏)出席 | 1/14 埼玉県職業能力開発センターの精神障害者ヘルパー養成講座受講生4名が実習、末吉講演 |
| 1/7 埼玉県精神保健福祉士協会研修部打ち合わせに堤、玉手参加 | 1/16 小規模作業所ステップアップセミナーに檜山、椿原出席 |
| 1/9 墨田区役所にて「いのちの地域ケア」編集会議に増田、西村、黒崎出席 | 1/17 ピアショップ大宮にてエンジュ授産製品販売 |
| 1/10 中川自治会新年会に白石出席 | 1/18 大宮障害者施設連絡会役員会に三石、中村(由)出席 |
| 1/11 ピアショップ大宮にてなす花販売 | |

- | | | | |
|---------|--|------|--|
| 1/18 | さいたま市中央区障害者団体協議会、音楽交流のつどい実行委員会に檜山出席 | 販売 | |
| 1/18 | 神奈川県相模原市生活支援センターカミングのピアカウンセラー養成講座にて須藤、佐々木講演 | 1/24 | さいたま市障がい者施設連絡会役員会に増田 檜山出席 |
| 1/19 | 大正大学にて三石講義 | 1/25 | さいたま市障害者施策推進協議会ワーキンググループ、さいたま市ケアマネジメント推進協議会に増田出席 |
| 1/19 | 早稲田医療技術専門学校作業療法科より学生3年生36名体験研修。白石、三浦、末吉講演 | 1/25 | JRコスモスプラン打ち合わせ会に増田出席 |
| 1/19 | わくわくの会で小規模授産施設「なごみ」、ハンセン病資料館を見学・研修 | 1/25 | 茨城県伊奈町保健センターより12名体験研修 |
| 1/20 | やどかりの里会館にて避難訓練実施 | 1/26 | 人力車定例会に竹村、川口出席 |
| 1/20 | さいたま市精神障害者小規模作業所連絡協議会研修会と役員会に檜山、椿原、川口、中村(由)、渡辺(里)出席、GDについての説明のため増田参加 | 1/27 | 人力車にあゆみ舎出店 |
| 1/20 | 埼玉県公益法人監査実施 | 1/27 | 埼玉県社会就労センター協議会調査研究委員会に増田出席 |
| 1/21 | 埼玉県精神障害者社会復帰施設運営協議会宿泊部会東南支部会に白石、玉手参加 | 1/27 | さいたま市中央区障害者団体協議会理事會に佐々木、檜山出席 |
| 1/21 | 関東社会就労協議会研修会に増田、工藤出席 | 1/27 | 埼玉県精神障害者社会復帰施設運営協議会役員会に三石、香野(恵)、渡邊(奏)出席 |
| 1/21 | 国立職業リハビリテーションセンターより訓練生11名見学 | 1/28 | きょうされん主催施設経営管理者研修会に三石、渡邊(奏)参加 |
| 1/21 | 秀文社の精神障害者ホームヘルパー養成講座受講生6名が実習、堀講演。 | 1/28 | 竹ノ塚保健センター第2回精神保健福祉管内連絡会で増田講演 |
| 1/22 | 埼玉県看護協会主催「訪問介護員等のフォローアップ研修」にて菅原(進)、白石講演 | 1/28 | 第9回日本健康福祉政策学会学術大会準備会に増田出席 |
| 1/22 | 「夢を形にプロジェクト」に工藤取材参加 | 1/28 | (仮称)さいたま市障害者総合支援センター検討委員会に鈴木(美)出席 |
| 1/22~23 | 全国保健師活動研究集會に増田、渡邊(昌)、長谷川取材兼書籍販売、佐々木、檜山、堤、三石、渡邊(奏)参加。 | 1/28 | 人力車交流会に竹村、上條、川口参加 |
| 1/24 | ピアショップ大宮にてエンジュ授産製品 | 1/29 | やどかり研究所運営委員会開催 |
| | | 1/29 | まごころ小規模授産施設開設準備委員会開催 |
| | | 1/31 | 埼玉県精神障害者社会復帰施設運営協議会労働部会に岡登、堤、香野(恵)参加 |

編集後記

やどかりの里の35周年に向けて、機関紙でも新しい「企画」を取り上げたい、そんな思いで特集が始まった。特にこの5年間には創設者の退任があり、さいたま市の誕生や障害の種別を越えた連帯と交流、ネットワークづくりなど、企画を通してやどかりの里の新たな息吹を読者に感じてもらえたら大変嬉しい。他にも座談会が多く、日程調整、開催、とりまとめと編集委員は大活躍の2月号である。

(浅見 典子)